理学療法学科

授業科目

理学療法学科（The department physical therapy）

ディプロマ・ポリシー（卒業までに身につけるべき能力）
自ら学ぶ力を基盤とした基本的理学療法に必要な知識・技術ならびに社会性を身につけている。

	講義		実習
3学年	カリキュラム・ポリシー	**対象者に寄り添い、問題解決に惜しみない力を発揮するための専門知識・社会性を育成する。**	
	専門分野：総合臨床実習／総合臨床実習ケーススタディ／基礎分野演習／専門分野演習／総合分野演習		**総合臨床実習【9週間×2施設】** 対象者に理学療法評価を実施し、治療を行い、その効果判定、再評価、問題点の再検討、治療プログラムの変更などを行います。 ※実習前には実技の再学習を行います。実習後は振り返りなどを行い、さらに知識を深めます。
2学年	カリキュラム・ポリシー	これまでに修得した知識や社会性をもとに理学療法を実践できる力を育成する。	
	専門基礎分野：内科学／整形外科学／神経内科学／精神医学／小児科学 ***専門分野***：理学療法概論Ⅱ／臨床運動学／理学療法評価法Ⅰ・Ⅱ／画像評価学／脳血管疾患患者への理学療法治療学Ⅰ・Ⅱ／運動器疾患患者への理学療法治療学Ⅰ・Ⅱ／神経筋疾患患者への理学療法治療学／内部疾患患者への理学療法治療学／小児・老年期理学療法治療学／理学療法治療学特論／義肢装具学／物理療法学／日常生活技術論実習／評価実習ケーススタディ／評価実習		**評価実習【3週間】** 対象者に理学療法評価を実施し全体像や問題点の抽出について学びます。また、リハビリテーション実施計画書の作成についても学びます。
1学年	カリキュラム・ポリシー	幅広い知識ならびにコミュニケーション技術を修得するために自発的な行動ができるよう育成する。	
	基礎分野：医療倫理学／統計学／心理学概論／生物学／医学英語／人間発達学／コミュニケーション概論 ***専門基礎分野***：解剖学Ⅰ・Ⅱ／生理学Ⅰ・Ⅱ／運動学／運動学実習／人体の機能と構造Ⅰ・Ⅱ／基礎演習／病理学概論／臨床心理学／総合臨床医学／リハビリテーション概論Ⅰ・Ⅱ ***専門分野***：理学療法概論Ⅰ／理学療法管理学／検査・測定法／理学療法治療学総論／日常生活技術論／地域理学療法学／見学実習		**見学実習【1週間】** 医療人としての基本的態度を学ぶとともに理学療法とは何か、理学療法士の役割について学びます。特に通所リハビリテーションなどの地域における臨床の見学を通じ学習します。

＜ 別 表 1－2 ＞

理学療法学科　教育課程

	指定規則に定める教育内容	指定規則に定める単位数	授業科目	授業形式	単位数	時間数	1学年		2学年		3学年	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	14	医療倫理学	講義	2	30	2	30				
			統計学	講義	2	30	2	30				
			心理学概論	講義	2	30	2	30				
			生物学	講義	2	30	2	30				
			医学英語	講義	2	30	2	30				
			人間発達学	講義	2	30	2	30				
			コミュニケーション概論	講義	2	30	2	30				
	合計	14			14	210	14	210	0	0	0	0
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	12	解剖学Ⅰ	講義	2	30	2	30				
			解剖学Ⅱ	講義	2	30	2	30				
			生理学Ⅰ	講義	2	30	2	30				
			生理学Ⅱ	講義	2	30	2	30				
			運動学	講義	2	60	2	60				
			運動学実習	実習	2	60	2	60				
			人体の機能と構造Ⅰ	演習	2	60	2	60				
			人体の機能と構造Ⅱ	演習	1	30			1	30		
			基礎演習	演習	2	60	2	60				
	合計	12			17	390	16	360	1	30	0	0
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	14	病理学概論	講義	2	30	2	30				
			臨床心理学	講義	2	30	2	30				
			内科学	講義	2	30			2	30		
			整形外科学	講義	2	30			2	30		
			神経内科学	講義	2	30			2	30		
			精神医学	講義	2	30			2	30		
			小児科学	講義	2	30			2	30		
			総合臨床医学	講義	2	30	2	30				
	合計	14			16	240	6	90	10	150	0	0
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	4	リハビリテーション概論Ⅰ	講義	2	30	2	30				
			リハビリテーション概論Ⅱ	講義	2	30	2	30				
	合計	4			4	60	4	60	0	0	0	0
専門分野	基礎理学療法学	6	理学療法概論Ⅰ	講義	2	30	2	30				
			理学療法概論Ⅱ	講義	2	30			2	30		
			臨床運動学	演習	2	60			2	60		
			基礎分野演習	演習	3	90					3	90
	合計	6			9	210	2	30	4	90	3	90
	理学療法管理学	2	理学療法管理学	講義	2	30	2	30				
	合計	2			2	30	2	30				
	理学療法評価学	6	検査・測定法	実技	2	90	2	90				
			理学療法評価法Ⅰ	実技	2	90			2	90		
			理学療法評価法Ⅱ	演習	2	60			2	60		
			画像評価学	演習	1	30			1	30		
	合計	5			7	270	2	90	5	180	0	0
	理学療法治療学	20	理学療法治療学総論	講義	2	30	2	30				
			脳血管疾患患者への理学療法治療学Ⅰ	演習	2	60			2	60		
			脳血管疾患患者への理学療法治療学Ⅱ	演習	2	60			2	60		
			運動器疾患患者への理学療法治療学Ⅰ	演習	2	60			2	60		
			運動器疾患患者への理学療法治療学Ⅱ	演習	2	60			2	60		
			神経筋疾患患者への理学療法治療学	演習	2	60			2	60		
			内部疾患患者への理学療法治療学	演習	2	60			2	60		
			小児・老年期理学療法治療学	演習	2	60			2	60		
			理学療法治療学特論	演習	1	30			1	30		
			義肢装具学	演習	1	30			1	30		
			物理療法学	演習	1	30			1	30		
			専門分野演習	演習	3	90					3	90
			総合分野演習	演習	2	60					2	60
	合計	20			24	690	2	30	17	510	5	150
	地域理学療法学	3	日常生活技術論	講義	2	30	2	30				
			日常生活技術論演習	演習	2	60			2	60		
			地域理学療法学	講義	1	30	1	30				
	合計	4			5	120	3	60	2	60	0	0
	臨床実習	20	見学実習	実習	1	45	1	45				
			評価実習	実習	3	135			3	135		
			評価実習ｹｰｽｽﾀﾃﾞｨ	演習	1	30			1	30		
			総合臨床実習	実習	18	810					18	810
			総合臨床実習ｹｰｽｽﾀﾃﾞｨ	演習	1	30					1	30
	合計	18			24	1050	1	45	4	165	19	840
総合計					122	3270	52	1005	43	1185	27	1080

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎分野	コミュニケーション概論	庄司麻美	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	・対人援助職として望ましいコミュニケーション力を身につけるために、「みる」「きく」「つたえる」「共感する」ことの基本技能を学ぶ。 ・自身のコミュニケーションスキルを客観的に認識し、良好な対人関係を築くために必要な技能やマナーを身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・臨床で役立つコミュニケーションスキルが把握できる。 ・援助職として求められる態度について理解できる。 ・相手や場に適したコミュニケーション技法を知り、実践できる。		
授業計画	専門職の知識や技術を活かすには、効果的なコミュニケーションの知識及び理解が不可欠です。技能を自分に定着させるコツは『日頃から意識をもつこと』・『繰り返して実践すること』です。 第1回：医療者になるための準備 第2回：リハビリテーションに活かすコミュニケーション論 第3回：コミュニケーションの基本・技法① 第4回：コミュニケーションに必要とされる考え方、必要とされる力 第5・6回：コミュニケーションの基礎・技法② 第7回：対人援助職としての自分づくり 第8回：相手を理解するためのポイント、医療面接 第9回：多職種連携とチーム医療 第10回：リーダーシップ論、チーム・アプローチの基本構造 第11回：チーム・アプローチにおける課題と対応 第12・13回：多職種連携の実践 第14・15回：　まとめ・定期試験		
教科書	山口美和：第2版「PT･OTのためのコミュニケーション実践ガイド」医学書院 2,800円＋税，他 適宜資料配布		
参考書	内山靖：「リハベーシック　コミュニケーション論・多職種連携論」医歯薬出版,2,700円＋税 諏訪茂樹：第2版「対人援助とコミュニケーション」中央法規　1,900円＋税		
成績評価方法・基準	課題提出40%，ポートフォリオ30%，筆記試験30%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対人援助職としての新たな自分づくりが必要です。 学んだことは各自で実践を通してスキルアップしていきましょう。		
教員紹介	作業療法士の実務経験をもつ教員が、対人援助者になるために習得すべき医療職としての基本的態度やマナーについて講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	運動学	鈴木　恒	2単位・60時間
授業の概要 (授業の目的)	運動学はヒトの身体運動について学ぶ理学療法の基礎となる科目です。身体に加わる力との関わりなど、身体運動に関する『正常』を解剖学、生理学、力学的観点から理解すること。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・筋骨格系の構造、機能、関節運動と靭帯および筋の作用を理解、説明できる。 ・身体に加わる力、ﾓｰﾒﾝﾄなどの力学的な原理を理解、説明できる。 ・身体重心の位置、支持基底面など姿勢の保持と安定を理解、説明できる。 ・正常歩行の関節運動、筋活動、重心移動、床反力などを歩行周期との関連で理解、説明できる。		
授業計画	第1,2回　身体と運動：身体の基本面、体位と構え、ﾓｰﾒﾝﾄとてこ 第3,4回　関節の分類と関節運動、骨格筋の構造等 第5,6回　肩甲帯 第7,8回　肩関節 第9,10回　肘関節と前腕 第11,12回　手関節と手部 第13,14回　股関節 第15,16回　膝関節と下腿 第17,18回　足関節と足部 第19,20回　頭頸部と胸腰部 第21,22回　姿勢と重心、立位制御と運動戦略 第23,24回　歩行 第25,26回　運動学習と運動処方 第27,28回　総復習 第29,30回　定期試験と解説		
教科書	伊藤元ほか編集：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　運動学，医学書院，2012，5,000円+税		
参考書	適宜資料配布		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業構成は前回の復習30分、予習30分、講義120分となっています。 タブレット等使用する場合はご相談ください。 授業中は携帯電話を鞄の中にしまってください。		
教員紹介	理学療法学科の専任教員が担当します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	1学年	後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	運動学実習	鈴木　恒	2単位・60時間

授業の概要 (授業の目的)	運動学で得た知識を実習で確認することによって、評価や治療に活用できるようにすること。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・他者の身体の各関節運動・動作を理解する。 ・自身の身体を用いて各関節運動・動作を実践できる。 ・他者に身体の各関節運動・動作をわかりやすく説明できる。
授業計画	第1,2回　オリエンテーション 第3,4回　肩甲骨：肩甲骨面等の実習 第5,6回　肩関節：肩関節外旋等の実習 第7,8回　肘関節、前腕、手関節：Huter線／三角等の実習 第9,10回　股関節：膝関節の肢位の違いによる股関節屈曲等の実習 第11,12回　膝関節、下腿：Screw Home Movement等の実習 第13,14回　足関節、足部：足根骨の触診等の実習 第15,16回　テーピング実習 第17,18回　頸部、胸腰部に関する実習 第19,20回　歩行：歩行周期、歩行率等の実習 第21,22回　上肢触診復習 第23,24回　下肢触診復習 第25,26回　筆記試験対策 第27,28回　実技試験 第29,30回　定期試験と解説
教科書	青木隆明監修：改訂第2版運動療法のための触診技術上肢，MEDICAL VIEW，2011，5,700円+税 青木隆明監修：改訂第2版運動療法のための触診技技術下肢･体幹，MEDICAL VIEW，2011，5,700円+税
参考書	適宜資料配布
成績評価の方法・基準	実技試験（30%）、定期試験（70%）
授業の留意点・授業外の学習活動など	Tシャツ、ハーフパンツなど可能な範囲で身体の露出できる、動きやすい服装で授業を受けてください。 小テストは、その週にやった内容をもとに、翌週の授業はじめに実技を実施します。実技試験は、二人一組のペアで上肢・下肢それぞれ一部位の触診等を実施してもらいます。 授業中は携帯電話を鞄の中にしまってください。
教員紹介	理学療法学科の専任教員が担当します。前期の運動学の知識は必須になりますので、復習をして授業に望んでください。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	1学年	前期・後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	人体の機能と構造Ⅰ	西井琢馬	2単位・60時間

授業の概要 (授業の目的)	身体を構成する組織・器官を筋・骨格系（運動器)、神経系、内臓諸器官系に大別し、これらの構造と機能について学ぶ。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	①骨・関節の構造と機能について説明できる ②骨格筋の構造と機能について説明できる ③神経（末梢・中枢神経系）の構造と機能について説明できる ④呼吸器（気管支，肺など）の構造と機能について説明できる ⑤循環器（心臓・血管など）の構造と機能について説明できる ⑥消化器（胃・腸・肝臓など）の構造と機能について説明できる ⑦その他の内臓器（内分泌器・泌尿器・生殖器など）の構造と機能について説明できる
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　運動器① 第3回　運動器② 第4回　運動器③ 第5回　運動器④ 第6回　脳・神経① 第7回　脳・神経② 第8回　脳・神経③ 第9回　脳・神経④ 第10回 脳・神経⑤ 第11回 脳・神経⑥ 第12回 感覚器① 第13回 感覚器② 第14回 総論① 第15回 中間試験（解説） 第16回　血液・免疫① 第17回　血液・免疫② 第18回　循環器① 第19回　循環器② 第20回　呼吸器① 第21回　呼吸器② 第22回　腎・泌尿器① 第23回　腎・泌尿器② 第24回　消化器① 第25回　消化器② 第26回　内分泌・代謝① 第27回　内分泌・代謝② 第28回　生殖器 第29回　総論② 第30回　期末試験（解説）
教科書	適時資料配布 岡庭 豊：「からだがみえる　人体の構造と機能」(株式会社メディックメディア)3,900円+税
参考書	解剖学・生理学・運動学の授業で使用している教科書
成績評価の方法・基準	中間筆記試験（50%）期末筆記試験（50%）
授業の留意点・授業外の学習活動など	理学療法士を目指すうえで必要な基礎医学の科目になります。わからないことを後回しにしないで、授業内で質問し解決してください。
教員紹介	理学療法士として、病院やクリニック等での実務経験をもつ教員が、基礎的な解剖学・生理学・運動学について講義します。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	1学年	通年	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	基礎演習	佐藤　譲司	2単位・60時間

授業の概要 (授業の目的)	本学院での学び方、ルール、仲間について理解する。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	専門学校での主体的な学び方について理解する。 学科の特徴や専門性を理解した上で、自分の将来設計を説明できる。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2～4回　ルールについて（学則～生活ガイド、メールなど） 第5～8回　学ぶことについて（授業、ノート、読書、勉強法など） 第9～12回　レポートの書き方について 第13・14回　資料の探し方について 第15回～　グループワーク ※変更があれば、随時報告します。
教科書	適宜資料配布
参考書	向後千春著：18歳からの大人の学び基礎講座：北大路書房：1,400円+税 津村俊充ら：実践人間関係づくりﾌｧｼﾘﾃｰｼｮﾝ：金子書房：2,300円+税
成績評価の方法・基準	レポート
授業の留意点・授業外の学習活動など	これからの学び方全般についての理解を求めます。社会人および医療人になる者としての自覚と責任を持った行動を求めます。これからの学院生活に向けて能動的な学習スタイルを確立しましょう。不安や疑問があれば、いつでも質問して下さい。
教員紹介	理学療法学科の専任教員が担当します。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	リハビリテーション概論Ⅰ	佐藤　譲司	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	リハビリテーションの理念と原則を踏まえて、医学・職業・社会・心理的側面における包括的な考え方ができる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	リハビリテーションの基本理念を身につける。 チームアプローチに貢献できる人材となるための基礎能力を身につける。 国際障害分類を基本に障害者の評価とリハビリテーションの介入方法が言える。		
授業計画	第1回　リハビリテーションの概念 第2回　リハビリテーションの歴史 第3回　リハビリテーションにおけるチーム医療 第4回　リハビリテーションにおける他職種連携の理解 第5回　リハビリテーション医学における「活動について」 第6回　リハビリテーション医学における「動きについて」 第7回　健康と障害の概念と分類①（WHO、ICIDH） 第8回　健康と障害の概念と分類②（ICF） 第9回　リハビリテーション過程（評価、ゴール設定、治療） 第10回　リハビリテーションの諸段階 第11回　医療・リハビリテーション医療（EBM、医療保険・災害時） 第12回　地域リハビリテーション （施設・在宅、地域包括ケアシステムなど） 第13回　リハビリテーション専門職に関わる諸問題 （リスク管理、感染予防、個人情報、臨床参加型実習） 第14回　保険制度・医療法、社会保障論 第15回　定期テストと解説		
教科書	適宜資料配布		
参考書	栢森良二著「学生のためのリハビリテーション医学概論 第3版」 医歯薬出版株式会社　3,000円＋税 川手信行編集「リハビリテーション概論のいろは」 南江堂　3,200円+税		
成績評価の方法・基準	定期試験（筆記）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	分からないことは直ぐに調べる習慣を持ちましょう。		
教員紹介	理学療法学科の専任教員が担当します。皆さんと一緒にリハビリテーションとは何かについて学んでいきます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論Ⅱ	作業療法学科・言語聴覚学科・介護福祉学科教員	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・多職種連携アプローチが出来るようになるために、リハビリテーション関連職である作業療法士、言語聴覚士、看護師および介護福祉士の役割を理解する ・地域生活支援としての自立支援、就労支援の在り方を理解する		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・作業療法分野の各領域の特性を簡単に言語化できる。 ・言語聴覚士が携わる対象領域が説明できる ・介護福祉士の業務を把握できる。 ・看護師の業務を説明できる。 ・理学療法を行う上で、他職種との連携の仕方が説明できる。		
授業計画	第1回　作業療法及び作業療法士法について 第2回　作業療法士の職域について 第3回　作業の治療的活用について 第4回　生活行為向上マネジメントと作業療法の関わりについて 第5回　言語聴覚療法および言語聴覚士法について 第6回　言語聴覚士の職域について 第7回　失語症患者への関わり方と連携業務について 第8回　摂食嚥下障害患者への関わり方と連携業務について 第9回　看護師および看護師法について 第10回　看護師の職域・連携について 第11回　介護福祉および介護福祉法について 第12回　介護福祉士の職域について 第13回　介護福祉士と地域連携について 第14回　介護福祉士と高齢者との関わりについて 第15回　定期試験（筆記試験） ※授業順番は変更する可能性があります。		
教科書	適宜資料配布		
参考書	指定なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験		
授業の留意点・授業外の学習活動など	他職種を知ることは、改めて理学療法の特性や役割を知ることにつながります。対象者の支援に多職種連携は必須です。他職種の専門性を知り、実習や臨床に役立ててください。		
教員紹介	各領域で臨床に携わっていた教員が、現場の経験を織り交ぜながら説明します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	理学療法概論Ⅰ	岩井　琢也	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	理学療法アプローチを円滑に進めるために、理学療法の概要を理解し、理学療法の考え方を身に付ける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・理学療法の概要について説明できる。 ・理学療法の実施に必要な各種対象について説明できる。 ・理学療法における病期・職域を理解することができる。		
授業計画	第1回　理学療法概要 第2回　理学療法の背景（1）障害の概念・分類，保険制度 第3回　理学療法の背景（2）歴史・法律，職業倫理，日本理学療法士協会 第4回　理学療法の構成 第5回　理学療法に必要な知識と実習 第6回　理学療法の主対象（1）中枢神経系 第7回　理学療法の主対象（2）運動器系 第8回　理学療法の主対象（3）内部障害系 第9回　理学療法の主対象（4）がん，介護予防 第10回　病期・職域別の理学療法（1）急性 第11回　病期・職域別の理学療法（2）回復期 第12回　病期・職域別の理学療法（3）生活期（維持期） 第13回　病期・職域別の理学療法（4）在宅における役割 第14回　病期・職域別の理学療法（5）行政・研究における役割 第15回　定期試験		
教科書	責任編集：浅香満,15レクチャー理学療法テキスト 理学療法概論,中山書店, 2,600円+税		
参考書	適宜紹介		
成績評価の方法・基準	定期試験（筆記）による		
授業の留意点・授業外の学習活動など	特になし		
教員紹介	理学療法士として維持期病院での実務経験を持つ教員が基礎理学療法として実践に必要な知識・理解についての講義を行います。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	理学療法管理学	佐藤　譲司	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	理学療法における職場管理能力、理学療法教育に必要な能力を培う		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	理学療法士を目指すために職業理解を構築する上で必要な職場管理、理学療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う。		
授業計画	理学療法士になる者として管理について学びます。 第1回　授業の進め方と管理について（導入） 第2回　セラピストとして必要なこと 第3回　行動変容について 第4回　信頼関係とリーダーシップ 第5回　利用者の満足度 第6回　興味の偏り 第7回　セミナー依存とは 第8回　タイムマネジメントについて 第9回　セラピストのモチベーションについて 第10回　キャリア教育の難しさについて 第11回　女性セラピストのキャリアについて 第12回　組織間の対立について 第13回　書類業務を乗り越えろ 第14回　臨床実習の今 第15回　レポート提出		
教科書	資料配布		
参考書	奈良勲編集：理学療法管理学：医歯薬出版：3,800円+税 植松光俊編集：理学療法管理学：南江堂：3,500円+税 金谷さとみ編集：ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ管理・運営実践ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ：ﾒﾃﾞｨｶﾙﾋﾞｭｰ：4,000+税		
成績評価の方法・基準	ポートフォリオ 採点基準に関しては1回目の講義時に説明します。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	私語は慎みましょう。また、演習時は積極的な参加と発言を求めます。		
教員紹介	理学療法学科の専任教員が担当します。皆さんと一緒に理学療法における管理学の基礎を学んでいきます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	1学年	後期	実技
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	検査・測定法	西井琢馬・佐藤譲司 鈴木恒・小嶋陽香 非常勤講師	2単位・90時間
授業の概要 (授業の目的)	理学療法における理学療法評価の流れと意味、各検査と測定について理解するために基本的な知識の修得とその方法や技術を学び実施する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	理学療法評価について目的や流れを説明し実施できる。 測定・検査・診断・評価の違いを説明し実施できる。 各検査・測定の意義・目的を説明し実施できる。 対象者にオリエンテーションが実施できる。		
授業計画	第1回　講義の進め方、理学療法評価総論 第2回　バイタルサイン測定［血圧・心音・脈の取り方・呼吸音(数)］① 第3回　バイタルサイン測定［血圧・心音・脈の取り方・呼吸音(数)］② 第4回　形態測定① 第5回　形態測定② 第6回　関節可動域① 第7回　関節可動域② 第8回　関節可動域③ 第9回　関節可動域④ 第10回　徒手筋力測定① 第11回　徒手筋力測定② 第12回　徒手筋力測定③ 第13回　徒手筋力測定④ 第14回　実技試験(解説) 第15回　筆記試験(解説)		
教科書	潮見泰藏ら:『リハビリテーション基礎評価学第2版』羊土社　6,000円＋税 津山直一他訳:『新・徒手筋力検査法第10版』協同医書出版社 7,800円＋税		
参考書	適宜資料配布		
成績評価の方法・基準	毎回の小テスト(10%)、実技試験(40%)、筆記試験(50%) 教科書・ノート・プリントの持ち込み不可		
授業の留意点・授業外の学習活動など	運動学(運動方向や身体の基本面、運動の面と軸、筋の起始停止など)、生理学(血圧や心拍など)、解剖学(関節面の構造や骨の名称、筋の走行と作用など)の知識を必要とします。実技を行なうので動きやすい服装にて履修してください。		
教員紹介	理学療法士として、病院やクリニック等での実務経験をもつ教員が、理学療法評価（検査・測定）について講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	理学療法治療学総論	佐藤　譲司	2単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	理学療法治療手段である運動療法を知るために、目的や方法を理解する。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	運動療法の歴史・基礎の知識を得るために、専門用語を理解する。 各運動療法の目的・方法・適応・禁忌を学び、対象者に実施できるか否かを考察できる。
授業計画	理学療法士になる者として運動療法の基礎を学びます。全てにおいて十分な理解を求めます。 第1回　9/3　導入および理学療法についての復習　南301 第2回　9/10　触診について① 第3回　9/17　触診について② 第4回　9/24　触診について③ 第5回　10/1　運動の原則について　南301 第6回　10/8　リラクセーションについて 第7回　10/15　ROM-exについて① 第8回　10/22　ROM-exについて② 第9回　10/29　ROM-exについて③ 第10回　11/5　ROM-exについて④ 第11回　11/12　MS-upexについて①　南301 第12回　11/19　MS-upexについて② 第13回　11/26　MS-upexについて③ 第14回　12/3　がん・感覚障害・腎機能・熱傷患者・妊婦および出産後の対象者、高齢者に関する運動療法 第15回　12/10　定期試験
教科書	石川　朗編集「運動療法学」：中山書店　2,400円+税
参考書	千住秀明監修「運動療法Ⅰ（第2版）」：神陵文庫　4,500円+税
成績評価の方法・基準	定期試験（筆記試験）
授業の留意点・授業外の学習活動など	分からないことは直ぐに調べる習慣を身に付けましょう。
教員紹介	理学療法学科の専任教員が担当します。皆さんと一緒に理学療法における運動療法の基礎を学んでいきます。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	日常生活技術論	成塚修一	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	対象者に日常生活の助言ができるようになるため、動作指導・介助、福祉用具の選択、住環境整備について理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	ADLの定義・セルフケア・関連動作が説明できる。 ADLの代表的な評価用紙を用いて、ADLレベルを測定できる。 適切な動作指導・介助、福祉用具の選択ができる。		
授業計画	第1回　オリエンテーション／ADLの概念と範囲 第2回　ADL測定について 第3回　FIMとBIについて① 第4回　FIMとBIについて② 第5回　FIMとBIについて③ 第6回　基本的動作について① 第7回　基本的動作に対する② 第8回　基本的動作に対する③ 第9回　住環境整備について 第10回　歩行補助具の選別・処方についてグループワーク 第11回　車椅子処方についてグループワーク 第12回　歩行補助具・車椅子の実技 第13回　総論 第14回　実技試験　(解説) 第15回　筆記試験　(解説)		
教科書	臼田 滋：『Crosslink 理学療法学テキスト　日常生活活動学』 メディカルビュー社 4,800円+税		
参考書	適宜資料配布		
成績評価の方法・基準	実技試験(10%)、定期試験(90%)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義が基本となりますが、後半は実技も行います。実技の際は、動きやすい服装（ジャージなど）で参加してください。また、靴に関しても運動靴で参加をして下さい。		
教員紹介	理学療法士として、病院やクリニック、訪問看護ステーションでの実務経験をもつ教員が、基礎的なADLの評価や環境整備、基本動作について講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	地域理学療法学	成塚　修一	1単位・30単位
授業の概要 (授業の目的)	医療機関退院後あるいは障害を有しながら地域で生活する人々の生活障害や生活障害に対する理学療法介入の実際について学習する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	①地域における理学療法士の役割について説明できる。 ②地域理学療法に必要な制度について説明できる。 ③地域理学療法の実践方法について説明できる。		
授業計画	第1回　地域における理学療法士の役割 第2回　介護保険制度の理解 第3回　地域理学療法に求められる医学的管理 第4回　地域での理学療法評価 第5回　サービス種別にみる地域理学療法の実際＜訪問理学療法＞ 第6回　サービス種別にみる地域理学療法の実際＜通所系サービス＞ 第7回　サービス種別にみる地域理学療法の実際＜入所系サービス＞ 第8回　疾患別にみる地域理学療法の特異性＜中枢神経疾患＞ 第9回　疾患別にみる地域理学療法の特異性＜運動疾患＞ 第10回　疾患別にみる地域理学療法の特異性＜循環器疾患＞ 第11回　疾患別にみる地域理学療法の特異性＜がん＞ 第12回　生活環境の整備 第13回　理学療法による街づくり 第14回　小児領域の地域理学療法 第15回　筆記試験		
教科書	牧迫飛雄馬「最新　理学療法学講座　地域理学療法学」 医歯薬出版　4,200円＋税		
参考書	浅川康吉「Crosslink　理学療法学テキスト　地域理学療法学」 MEDICAL VIEW　4,500円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験(筆記)100%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義を基本に授業が進めますが、適宜グループワークを実施します。 他者へ意見を伝える力と聞き取る力を培えるように頑張りましょう。		
教員紹介	理学療法士として、急性期病院・クリニック・訪問看護ステーションにて経験を積み、現在特別支援学校の外部専門員として経験を積んでいる教員が授業を行ないます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	1年生	前期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	見学実習	各実習施設担当者	1単位・45時間
授業の概要 （授業の目的）	対象者への対応等についての理学療法介入場面の見学を実施する実習		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	理学療法士になる者として患者への対応力や理学療法士の業務内容（地域活動を含む）などについて見学を通して学ぶ実習である。解説を受けながら、臨床教育者の技術を観察し、その技術を理解しようとすることである。 1）一日の理学療法士の業務内容を理解することができる。 2）チーム医療の中での理学療法士の役割を説明できる。 3）対象者と日常会話が行える。		
授業計画	情意領域について主観的にチェックを行い、実習指導者より助言やアドバイスを頂き、行動変容ができる。 1.　挨拶・自己紹介ができる。 2.　実習生としてふさわしい身だしなみができる。 3.　実習生としての規則を厳守することができる。 4.　感情のコントロールができる。 5.　患者（家族を含む）を尊重する態度で接することができる。 6.　指導者及び職員と良好な人間関係を築くように努めるこができる。 7.　職員に対する節度ある言葉遣い・礼儀を行える。 8.　患者（家族を含む）に対する節度ある言葉遣い・礼儀を行える。 9.　知り得た情報に関する秘密保持が行える（守秘義務）。 10. 連絡・報告・相談が行える。 11. 備品や情報の整理・整頓が行える。 12. 出された課題（デイリーノートなど）は、期限を守って遂行することができる。 13. 実習中（緊急時を含む）指導者に適切な指示を仰ぐことができる。		
教科書	特になし		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	チェックリスト及び実習中の行動全般において総合的に判断する		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習施設の規則に従うこと。また実習施設や学院への報告・連絡・相談・確認を必ず実施すること		
教員紹介	臨床で活躍する理学療法士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	人体の機能と構造Ⅱ	岩井　琢也	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	1年次で修得した解剖学や生理学の再確認を行い、基礎医学の重要性を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	演習を通して知識の補填や確認を行える。 解剖学・生理学・病理学の問題を解くことができる。		
授業計画	《講義内容》 1. 骨と関節① 2. 骨と関節② 3. 骨と関節③ 4. 中枢神経系① 5. 中枢神経系② 6. 中枢神経系③ 7. 末梢神経と感覚器① 8. 末梢神経と感覚器② 9. 呼吸器① 10. 呼吸器② 11. 呼吸器③ 12. 循環器① 13. 循環器② 14. まとめ 15. 定期試験と解説		
教科書	資料配布		
参考書	必要により紹介		
成績評価の方法・基準	定期試験（筆記）による		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業の内容のみならず自己学習による周辺知識の獲得にも務めてください。		
教員紹介	理学療法士として維持期病院での実務経験を持つ教員が人体の機能と構造のつながりを踏まえた授業を行います。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2年生	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	精神医学	中村晃一・庄司麻美 鎌田小百合	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・理学療法士が直接的に精神障害者への治療・支援を実施する機会は少ないが、メンタルヘルスが身体面へ及ぼす影響は大きく、基礎的な精神障害（疾患）について学習する必要がある。この授業にて、精神障害（疾患）への理解を深め、実際の臨床場面でも患者様のメンタル面を考慮する視点を身につける。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・メンタルヘルスの重要性を他者に説明できるようになる。 ・基礎的な精神障害（疾患）について理解し、他者に説明できるようになる。 ・精神障害者に対し、どのような治療・支援が行われているかを理解し、他者に説明できるようになる。		
授業計画	第1回　“メンタルヘルス”を考える 第2回　気分障害 ①　大うつ病性障害 第3回　気分障害 ②　双極性障害 第4回　統合失調症 ① 第5回　統合失調症 ② 第6回　神経発達障害（小児の精神障害） 第7回　認知症① 第8回　認知症② 第9回　神経性障害 第10回　摂食障害 第11回　パーソナリティー障害 第12回　依存症 第13回　てんかん 第14回　精神保健福祉法 第15回　振り返り・定期試験		
教科書	随時資料を配布		
参考書	先﨑章監修：「精神医学 PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎」 羊土社　4,000円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	限られた講義時間ですので、講義中に質問等を受けることが難しい場合もありますが、理解できなかった事や納得できなかった事は、早い段階で担当教員に声をかけ解決するように努めて下さい。		
教員紹介	精神科医療現場にて臨床を重ねた教員が、疾患についての基本的な理解ができるよう説明をします。また、臨床でのエピソード等も加え実際の患者像を伝えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	小児科学	内田　学	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	各小児疾患のお子さんに対し理学療法・作業療法が行えるようになるために、必要な小児科学に関する知識を身に着ける。小児特有の疾患の特性を把握できるよう学習する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	定頸発達児の成長と発達について説明できる。 各小児疾患の病態や経過、治療戦略などについて説明できる。 小児疾患の病態を把握したうえで、適切なリハビリテーション実施計画を推論することが出来る。		
授業計画	第1回　小児科学総論 第2回　小児の成長と発達1 第3回　小児の成長と発達2 第4回　脳性麻痺1 第5回　脳性麻痺2 第6回　低出生発達児・ハイリスク児 第7回　新生児集中治療室での発達支援 第8回　先天異常・染色体異常 第9回　神経筋疾患1 第10回 神経筋疾患2 第11回 神経筋疾患3 第12回 発達障害 第13回 骨関節疾患 第14回 内部障害 第15回 定期試験		
教科書	伊藤利之　監修：子どものリハビリテーション医学　発達支援と療育　第3版」医学書院 9,000円+税		
参考書	適宜お伝えします。		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	グループワークなどを積極的に行います。		
教員紹介	理学療法士として3次救急病院で勤務してきました。小児領域は、療育環境下の訪問リハビリテーションなどを実践してきました。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	理学療法概論Ⅱ	小嶋　陽香	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	保健医療福祉や理学療法の基本について学び、現在の理学療法に関わる医療福祉制度や関連法規について理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	①理学療法に関わる医療・福祉制度および関連法規を理解し説明することができる。 ②理学療法研究に関わる医療統計法を理解し説明することができる。 ③根拠に基づいた疾患別の理学療法について説明することができる。		
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　医療・福祉制度について①(医療保険など) 第3回　医療・福祉制度について②(介護保険など) 第4回　診療録の記録 第5回　疾病・生活機能の概念と分類(ICF・ICIDH) 第6回　患者・障害者の心理・社会的側面 第7回　医療統計① 第8回　医療統計② 第9回　根拠に基づいた理学療法①総論 第10回　根拠に基づいた理学療法②運動器疾患 第11回　根拠に基づいた理学療法③脳血管疾患 第12回　根拠に基づいた理学療法④心大血管疾患 第13回　根拠に基づいた理学療法⑤呼吸器疾患 第14回　総復習 第15回　定期試験と解説		
教科書	資料配布		
参考書	公益社団法人 日本理学療法士協会；理学療法診療ガイドライン第2版, 医学書院, 2021, 5,500円+税 石川朗;理学療法テキスト 理学療法概論,中山書店,2017, 2,600円+税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	1年次で学んだ理学療法概論Ⅰの復習に加え、新たな範囲も加わります。予習復習を心がけてください。		
教員紹介	理学療法学科の専任教員が担当します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	通年	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	臨床運動学	鈴木 恒、法人職員	2単位・60時間

授業の概要 （授業の目的）	姿勢と各基本的動作や歩行の分析の仕組みを理解すること。 スティックピクチャー（シェーマ）を描いて、動作を説明すること。
授業の到達目標 （学生の行動目標）	【前期】 ・姿勢、動作分析、そして歩行分析の目的が理解できる。 ・姿勢、動作や歩行の分析が実践できる。 ・正常な姿勢、動作や歩行のスティックピクチャー（シェーマ）を描いて、動作を文章化および口頭で説明することができる。 【後期】 ・疾患別の姿勢、動作や歩行の分析が実践できる。
授業計画	【前期】 オリエンテーション 第1,2回　姿勢分析1：背臥位（視診・触診・被動性） 第3,4回　動作分析1：寝返り 第5,6回　動作分析2：起き上がり 第7,8回　姿勢分析2：端座位　※レポート課題1提出 第9,10回　姿勢分析3：立位 第11,12回　動作分析3：立ち上がり　※レポート課題2提出 第13,14回　歩行分析1：主観的評価および客観的評価 ※翌週以降でレポート課題3提出 【後期】 第15～28回　疾患別姿勢・動作分析 第29,30回　定期テスト、解説
教科書	資料配布
参考書	石井慎一郎：動作分析臨床活用講座，MEDICAL VIEW，2013，5,600円＋税
成績評価の方法・基準	前期：レポート課題（45%） 後期：定期テスト（55%）
授業の留意点・授業外の学習活動など	1年時に学習をした、解剖学や運動学の知識を用いて、観察および分析することが求められます。実技を行ないますので動きやすい服装で履修をしてください。授業中は携帯電話を鞄にしまってください。
教員紹介	前期は理学療法学科の専任教員、後期は医療法人和風会の臨床現場で活躍されている理学療法士の先生が担当します。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	前期	実技
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	理学療法評価法Ⅰ	成塚修一　岩井琢也 鈴木恒　西井琢馬	2単位・90時間
授業の概要 (授業の目的)	理学療法における基本的な検査・測定が行なえるようになるために、検査の目的や実施方法を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	各検査・測定の意義・目的を説明できる。 対象者に分かりやすいオリエンテーションができる。 各々の検査・測定を適切な時間内で実施できる。		
授業計画	第1.2.3回　オリエンテーション／整形外科テスト 第4.5.6回　整形外科テスト 第7.8.9回　感覚テスト 第10.11.12回　感覚テスト 第13.14.15回　反射 第16.17.18回　片麻痺機能検査 第19.20.21回　片麻痺機能検査／筋緊張テスト 第22.23.24回　筋緊張テスト 第25.26.27回　脳神経テスト 第28.29.30回　高次脳機能検査 第31.32.33回　協調性検査 第34.35.36回　姿勢反射テスト 第37.38.39回　体力測定 第40.41.42回　実技試験とまとめ 第43.44.45回　筆記試験と試験解説		
教科書	潮見泰藏:『PT・OTビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学第2版』羊土社　6,000円＋税		
参考書	適宜資料配布 田崎義昭:『ベットサイドの神経の診かた』南江堂　7,200円＋税 松村,三木:『整形外科徒手検査法』メディカルビュー社　4,800円＋税		
成績評価の方法・基準	小テスト(10%)、実技試験(40%)、筆記試験(50%)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	1年次に学習した、解剖学・運動学・生理学の知識を検査測定の目的と統合していくことが求められます。実技を行ないますので動きやすい服装で履修をしてください。授業中は携帯電を鞄にしまってください。		
教員紹介	様々な分野での臨床経験を積んできた教員が各検査方法の目的・意義を実際の症例を想定して授業を展開していきます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	理学療法評価法Ⅱ	岩井琢也・成塚修一・西井琢馬・岩戸徹	2単位・60時間
授業の概要 （授業の目的）	実習に向けて診療参加型による適切な情報収集・検査測定が行なえ問題点の抽出・統合と解釈が理解できる。臨床経験者の体験を通して、各疾患の動作の特徴を学ぶ。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	診療参加型による動作の特徴や問題点を見つけて、専門用語を用いて表現できる。検査測定を選択できそこから問題点を抽出し統合と解釈ができる。臨床で見られる、各疾患の動作の特徴を説明できる。		
授業計画	第1・2回 診療参加型実習、情報収集の目的・方法・ 第3・4回 検査・測定の目的・方法 第5・6回 統合と解釈の目的・方法 第7・8回 問題点抽出の目的・方法、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ総合実施計画書の書き方 第9・10・11回 ①脳血管疾患のｹｰｽｽﾀﾃﾞｨ（発表、教員総評） 第12回 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ総合実施計画書作成①（個人～ｸﾞﾙｰﾌﾟ内確認）、まとめ 第13・14・15回 ②整形外科疾患のｹｰｽｽﾀﾃﾞｨ（発表、教員総評） 第16回 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ総合実施計画書作成②（個人～ｸﾞﾙｰﾌﾟ内確認）、まとめ 第17・18・19回 ③脊髄損傷のｹｰｽｽﾀﾃﾞｨ（発表、教員総評） 第20回 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ総合実施計画書作成③（個人～ｸﾞﾙｰﾌﾟ内確認）、まとめ 第21・22・23回 ④内部疾患のｹｰｽｽﾀﾃﾞｨ（発表、教員総評） 第24回 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ総合実施計画書作成④（個人～ｸﾞﾙｰﾌﾟ内確認）、まとめ 第25・26・27回 ⑤神経筋疾患のｹｰｽｽﾀﾃﾞｨ（発表、教員総評） 第28回 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ総合実施計画書作成⑤（個人～ｸﾞﾙｰﾌﾟ内確認）、まとめ 第29・30回 定期試験（解説）		
教科書	なし（プリント随時配付）		
参考書	里宇明元「リハビリテーション臨床実習」医歯薬出版 4,600円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（筆記）による		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実技時には動きやすい服装、履物にて参加してください。 （ジーパン、スカート、サンダル等での参加は不可。）		
教員紹介	現場の理学療法士および急性期から維持期病院での実務経験を持つ教員が動作分析および評価の考え方を中心とした授業を行います。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	画像評価学	小嶋　陽香	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	理学療法を進めるにあたって、適切な治療計画を立てるために画像所見から重要な情報を収集し、障害の程度や重症度、リスクを予測する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	各画像検査法の種類が理解できる。 正常の画像所見が理解できる。 中枢疾患・運動器疾患および内部疾患の異常所見を理解し、どのような障害が起こるか考えることができる。		
授業計画	第1回　総論・画像検査法 第2回　正常解剖(脳) 第3回　中枢神経系疾患 第4回　中枢神経系疾患 第5回　中枢神経系疾患 第6回　正常解剖(脊椎) 第7回　運動器系疾患(脊椎) 第8回　正常解剖（上肢) 第9回　運動器系疾患(上肢) 第10回　正常解剖（下肢) 第11回　運動器疾患(下肢①) 第12回　運動器疾患(下肢①) 第13回　運動器疾患(下肢②) 第14回　胸部 第15回　定期試験および試験解説		
教科書	宮城浩一編集,標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学　別巻　画像評価,医学書院,4,200円+税		
参考書	適宜資料配布		
成績評価の方法・基準	筆記試験(100%)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	教科書で画像所見を確認します。教科書を毎回必ず持ってきてください。 疾患などわからない単語はその都度調べるようにしてください。		
教員紹介	急性期病院での実務経験がある教員が、画像所見の方法や画像から予後予測やリスク管理を考える方法を講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	前期	講義・演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	脳血管患者への 理学療法治療学Ⅰ	佐藤　譲司	2単位・60時間
授業の概要 (授業の目的)	脳血管障害における脳の構造や機能などの基礎的知識と病理学的変化を踏まえて上でその原因と徴候を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	脳血管障害の概要や原因、画像所見から一連の理学療法評価の流れについて説明することができる。		
授業計画	第1回　中枢神経系の基礎知識 第2回　運動と感覚、各疾患について① 第3回　運動と感覚、各疾患について② 第4回　脳損傷の定義と病態① 第5回　リスク管理 第6回　脳画像（CT・MR）の診かた① 第7回　脳画像（CT・MR）の診かた② 第8回　脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴 第9回　脳血管障害における理学療法の流れ 第10回　脳血管障害後片麻痺患者に対するPT評価① 第11回　脳血管障害後片麻痺患者に対するPT評価② 第12回　脳血管障害後片麻痺患者に対するPT評価③ 第13回　脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング 第14回　脳血管障害後片麻痺患者における合併症 第15回　定期試験と解説		
教科書	細田多穂監修「神経筋障害理学療法学テキスト版」南江堂　5,000円+税 岡庭　豊企画「病気がみえるvol.7脳・神経 第2版」ﾒﾃﾞｨｯｸﾒﾃﾞｨｱ 3,800円+税		
参考書	必要に応じて提示します		
成績評価の方法・基準	定期テスト		
授業の留意点・授業外の学習活動など	5分前行動の徹底、口頭での説明もメモする、勝手解釈なしないようにしてください。		
教員紹介	理学療法学科の専任教員が担当します。皆さんと一緒に脳血管障害とは何か、その対象者にどのように関わればよいのかを学びましょう。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	脳血管疾患患者への理学療法治療学Ⅱ	岩戸　徹	2単位・60時間
授業の概要 （授業の目的）	脳血管疾患後片麻痺者の評価と治療について理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	①脳血管疾患とは、片麻痺とはについて理解できる。②「歩けるようになりたい」より評価、治療できる。③「家に帰りたい」「ひとりでトイレがしたい」より評価、治療ができる。		
授業計画	第1,2回　脳血管疾患とは、片麻痺とは 第3,4回　歩行、車いす操作の評価と治療1（歩行の治療など） 第5,6回　歩行、車いす操作の評価と治療2（歩行の治療） 第7,8回　歩行、車いす操作の評価と治療3（歩行の治療） 第9,10回　歩行、車いす操作の評価と治療4（歩行の治療） 第11,12回　歩行、車いす操作の評価と治療5（歩行の治療） 第13,14回　歩行、車いす操作の評価と治療6（車いす操作の治療） 第15,16回　基本動作（寝返り）の評価と治療1 第17,18回　基本動作（起き上がり）の評価と治療2 第19,20回　基本動作（立ち上がり）の評価と治療3 第21,22回　基本動作（移乗）の評価と治療4 第23,24回　ADL（排泄・更衣・入浴）の評価と治療1 第25,26回　ADL（排泄・更衣・入浴）の評価と治療2 第27,28回　総復習 第29,30回　定期テストと解説		
教科書	監修上杉雅之;動作のﾒｶﾆｽﾞﾑがよくわかる実践！動作分析第 2 版,医歯薬出版,2020,4,500円+税　他資料配布		
参考書	適宜紹介		
成績評価の方法・基準	小テスト（20%）、定期テスト（80%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	運動着で臨んでください。		
教員紹介	理学療法士として群馬県のリハビリテーション病院等での実務経験をもつ教員が、学生に対し脳血管疾患後の片麻痺者の評価と治療について講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2年生	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	運動器疾患患者への 理学療法治療学Ⅰ	西井 琢馬	2単位・60時間
授業の概要 (授業の目的)	運動器疾患に対して理学療法を提供するために、適切な評価の選択と実施、問題点の抽出・治療プログラムを立案する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	EBMと照らし合わせた運動器疾患の理学療法を理解して、説明ができる。適切な評価を選択・実施し、問題点を抽出し、理学療法プログラムを立案して、生活指導・セルフエクササイズも含めた治療選択ができる。		
授業計画	第1.2回　オリエンテーション、総論 第3.4回　クリニカルリーズニング、ガイドラインについて 第5.6回　下肢の疾患①（変形性関節症①） 第7.8回　下肢の疾患②（変形性関節症②） 第9.10回　下肢の疾患③（変形性関節症③） 第11.12回　下肢の疾患④（膝関節靱帯損傷、半月板損傷など） 第13.14回　下肢の疾患⑤(大腿骨・膝・下腿骨折①) 第15.16回　下肢の疾患⑥(大腿骨・膝・下腿骨折②) 第17.18回　下肢の疾患⑦（足関節捻挫、アキレス腱断裂など） 第19.20回　上肢の疾患①（腱板断裂、肩関節周囲炎） 第21.22回　上肢の疾患②（鎖骨骨折、肩関節脱臼など） 第23.24回　上肢の疾患③（骨折①） 第25.26回　上肢の疾患④（骨折②） 第27.28回　PBL 第29.30回　定期試験と解説		
教科書	加藤 浩：運動器障害理学療法学，MEDICAL VIEW，2020，6,500円＋税		
参考書	井樋栄二ほか：標準整形外科学 第14版，医学書院，2020，9,400円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験(100%)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	整形外科学以外に運動学、解剖学、生理学ならびに検査測定法などの知識を統合して運動器疾患への理学療法に応用できるように準備しておきましょう。また実技もありますので、動きやすい服装で授業に臨んでください。		
教員紹介	理学療法士として、病院やクリニック等での実務経験をもつ教員が、運動器疾患患者に対する理学療法について講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	運動器疾患患者への理学療法治療学Ⅱ	西井　琢馬 小嶋　陽香	2単位・60時間
授業の概要 (授業の目的)	脊髄損傷を主とした運動器疾患者の理学療法を円滑に進めるために、病態を理解し、診療参加型にて評価、理学療法の考え方について理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・脊髄損傷を主とした運動器疾患者の病態について、説明できる。 ・診療参加型にて脊髄損傷者の理学療法評価項目を考えて実施できる。 ・診療参加型にて脊髄損傷者の理学療法アプローチについて考えて実施できる。		
授業計画	《講義内容》 第1・2回　脊椎の疾患①(腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症など) 第3・4回　脊椎の疾患②(腰痛など) 第5・6回　脊椎の疾患③(頸椎ヘルニア) 第7・8回　脊椎の疾患④(頸椎狭窄症) 第9・10回　脊椎の疾患⑤（脊椎圧迫骨折) 第11・12回　脊髄損傷①(総論、評価) 第13・14回　脊髄損傷②(理学療法介入など) 第15・16回　脊髄疾患(後縦靭帯骨化症等) 第17・18回　脊椎変形疾患(二分脊椎、側弯症等) 第19・20回　関節リウマチ 第21・22回　運動器不安定症① 第23・24回　運動器不安定症②総復習 第25・26回　PBL① 第27・28回　PBL② 第29・30回　定期試験および解説 ※学習状況により授業内容は前後する場合があります。		
教科書	井樋栄二他編「標準整形外科学　第14版」(医学書院)　9,400円+税 加藤　浩著「理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学」（メジカルビュー社）6,500円+税		
参考書	必要により紹介		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	実技を行う時には事前にお知らせしますので、動きやすい服装で参加してください。		
教員紹介	理学療法士として急性期および維持期病院での実務経験を持つ教員が運動器疾患と脊髄損傷の病態を踏まえた評価・治療介入の授業を行います。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	神経筋疾患患者への理学療法治療学	池田祐輔	2単位・60時間
授業の概要 (授業の目的)	中枢神経疾患等神経難病の理学療法評価と治療について学ぶ		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	神経難病患者の評価と治療を実践できる ・大脳基底核や小脳、脳幹の構造を知る。 ・大脳基底核や小脳、脳幹から生じる障害を学ぶ。 ・神経難病にみられる姿勢・運動の問題点を述べられる		
授業計画	第1.2回　脳の機能と構造（1）大脳基底核について 第3.4回　脳の機能と構造（2）大脳基底核について 第5.6回　脳の機能と構造（3）小脳について 第7.8回　脳の機能と構造（4）小脳について 第9.10回　脳の機能と構造（5）脳幹について 第11.12回　パーキンソン病の病態 第13.14回　パーキンソン病に対する評価と治療 第15.16回　運動失調の病態 第17.18回　運動失調に対する評価と治療 第19.20回　頭部外傷・脳腫瘍の病態、評価と治療 第21.22回　多発性硬化症の病態、評価と治療 第23.24回　筋萎縮性側索硬化症の病態、評価と治療 第25.26回　末梢神経障害の病態、評価と治療 第27.28回　筋源性障害の病態、評価と治療 第29.30回　定期試験と解説		
教科書	石川朗編集　理学療法テキスト神経障害理学療法Ⅱ第2版 中山書店 2,400円+税		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績評価の方法・基準	小テスト（30%）、定期試験（70%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	中枢神経系の働きを復習し、そこが障害されることで生じる病態を理解していきます。わからないことがあれば質問をしてください。		
教員紹介	現場の理学療法士が対象者への介入（理学療法評価の流れや考え方）について授業を行います。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	内部疾患患者への 理学療法治療学	岩井　琢也 小嶋　陽香 非常勤講師	2単位・60時間
授業の概要 (授業の目的)	診療参加型にて呼吸・循環等の解剖、生理、運動学を復習し、病態に応じた診断、評価、治療の流れを整理する。また、介入の中心となる運動療法について、要点とその理論的背景や、リスク管理の実践方法について学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	診療参加型にて呼吸器・循環器等障害患者の理学療法評価並びに治療介入を実践できる。・呼吸器・循環器等障害の概要が理解できる。 ・呼吸器・循環器等障害に適切な評価、治療介入(喀痰等の吸引を含む)ができる。		
授業計画	1,2.呼吸器の基礎① 3,4. 呼吸器の基礎② 5,6. 呼吸理学療法の概要 7,8. 呼吸理学療法と呼吸不全 9,10. 呼吸理学療法評価 11,12. 呼吸理学療法 13,14.がん患者への理学療法介入 15,16.循環器の復習 17,18. 大動脈解離患者への理学療法 19,20. 心不全患者への理学療法 21,22. 心電図 23,24. 糖尿病・腎不全患者への理学療法 25,26. 心肺運動負荷試験 27,28. 虚血性心疾患患者への理学療法 29,30.定期試験および試験解説		
教科書	松尾善美;内部障害理学療法学,羊土社,2016,定価5,000円＋税		
参考書	必要に応じて提示します。		
成績評価の方法・基準	筆記試験　100点満点		
授業の留意点・授業外の学習活動など	聴診器（リットマン等)、血圧計を持参してください。実技の際は、動きやすい服装で参加してください。(ジーンズ不可)		
教員紹介	理学療法士として急性期および維持期病院での実務経験を持つ教員が内部障害の病態を踏まえた評価・治療介入の授業を行います。臨床現場で活躍している医師および理学療法士が非常勤講師として授業を行います。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	小児・老年期理学療法治療学	成塚　修一	2単位　60時間
授業の概要 (授業の目的)	小児理学療法治療学では、脳性麻痺や自閉症スペクトラム障害による異常運動発達や精神発達遅滞の特徴を理解し、評価、介入の概要と構成要素を理解することを目的とする。 老年期理学療法治療学では、老化に伴ってみられる身体的変化や精神的変化についての理解を深め、老年期に頻発する認知症、加齢に伴う症状や廃用症候群に対する介入方法について理解することを目的とする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	小児期の脳性麻痺や自閉症スペクトラム障害、また老年期に伴う様々な要因を把握し、適切な理学療法について理解し、評価と治療が実践できる。		
授業計画	第1,2回　小児期理学療法治療学総論 第3,4回　脳性麻痺(痙直型)の評価と治療1 第5,6回　脳性麻痺(痙直型)の評価と治療2 第7,8回　脳性麻痺(痙直型)の評価と治療3 第9,10回　脳性麻痺(アテトーゼ型)の評価と治療1 第11,12回　脳性麻痺(アテトーゼ型)の評価と治療2 第13,14回　自閉症スペクトラム障害の評価と治療1 第15,16回　自閉症スペクトラム障害の評価と治療2 第17,18回　老年期理学療法治療学総論 第19,20回　サルコペニア・フレイル・ロコモティブシンドロームの評価と治療 第21,22回　認知症の評価と治療 第23,24回　加齢・高齢者の評価と治療1 第25,26回　加齢・高齢者の評価と治療2 第27,28回　廃用症候群の評価と治療 第29,30回　定期試験と解説		
教科書	細田多穂：『小児理学療法学テキスト改訂第3版』南江堂　4,500円+税 細田多穂：『高齢者理学療法学テキスト』南江堂　3,800円+税		
参考書	上杉雅之：『イラストでわかる小児理学療法』医歯薬出版　4,200円+税 土田玲子：『感覚統合Q&A改訂第2版』協同医書出版社　3,000円+税		
成績評価の方法・基準	小テスト(20%)、定期試験(80%)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	Tシャツ、短パン、ジャージなど身体が露出できる、動きやすい服装にて出席をすること。		
教員紹介	理学療法士として、急性期病院・クリニック・訪問看護ステーションにて経験を積み、現在特別支援学校の外部専門員として経験を積んでいる教員が授業を行ないます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	後期	実技
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	理学療法治療学特論	吉川一彰	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	PNFのコンセプトを用いた哲学・基本原理原則を理解し、 患者様の治療に対する評価や考え方などを学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・PNFコンセプトを用いた考え方や方法を一つの治療手技として学習する。 ・評価実習や治療実習に向けた準備をする。		
授業計画	第1回　：PNF哲学・原理原則について(紹介と講義) 第2回　：PNF哲学・原理原則について(実技を用いて上記説明) 第3回　：肩甲骨・骨盤帯のパターン(講義) 第4回　：肩甲骨・骨盤帯のパターン(感覚入力練習　実技) 第5回　：肩甲骨・骨盤帯のパターン(集団屈曲・伸展　実技) 第6回　：寝返り動作の実技 第7回　：Supine progression 第8回　：Prone progression 第9回　：ハンドリング(実技) 第10回　：下肢パターン(講義) 第11回　：下肢パターン(Flex-ad Ext-ab 実技) 第12回　：立ち上がり動作 第13回　：歩行について(講義) 第14回　：歩行の評価と全体的な"まとめ" 第15回　：グループワーク evaluation / treatment（原理原則を用いて）		
教科書	資料を配布します		
参考書	PNF in Practice Fourth edition: An Illustrated Guide 出版社: Springer; 4th fully revised ed. 2014版 Susan Adler (著), Dominiek Beckers (著), Math Buck (著)		
成績評価の方法・基準	筆記試験		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実技練習がある為、動きやすい服装でお願い致します。		
教員紹介	理学療法士（2004年）として急性期・クリニック・アメリカの病院で実務経験を持つ国際認定のセラピストが、母校でもある学院の学生に、臨床での基本的な技術や考え方は勿論、実習前に必要な病状のイメージや動作に対する分析まで、適切に講義・技術指導いたします。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	義肢装具学	緑川　潤一	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・リハビリテーションや日常生活において、障害を軽減または代償するために用いられる義肢や装具の役割、必要性を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・義肢や装具の構成要素の名称や種類および機能が理解できる。 ・症例ごとに必要な義肢や装具を選択できる。		
授業計画	授業では、治療や日常生活において用いられる、義肢や装具について教科書だけでなく、実際に義肢や装具を用いて、見て、触れて授業を進めていきます。 第1回　義肢学概論 第2回　義肢装具材料学 第3回　切断について 第4回　義手の構成要素（種類・機能） 第5回　義手（前腕義手・適合判定） 第6回　義手（上腕義手・適合判定） 第7回　義足（下腿・大腿義足など） 第8回　膝継手・義足足部 第9回　義足のアライメント調整 第10回　その他の義足 第11回　装具学概論 第12回　体幹装具（種類・適応疾患など） 第13回　上肢装具（種類・適応疾患など） 第14回　下肢装具（種類・適応疾患など） 第15回　定期試験　まとめ		
教科書	・伊藤利之ら編集『義肢装具のチェックポイント』医学書院　7,600円+税 ・プリント随時配布		
参考書	特にありません		
成績評価の方法・基準	定期試験100%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	義肢や装具の種類、構成部品等、覚えることが非常に多いので、必ず復習をしてください。		
教員紹介	千ヶ瀬ケアホーム　施設長 義肢装具士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	物理療法学	岩井　琢也	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	臨床での物理療法の実施を円滑に進めるために、診療参加型にて物理療法の種類と注意点、実施方法について身に付ける。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・物理療法の種類と特徴について説明できる。 ・物理療法の適応と禁忌、注意点について説明できる。 ・診療参加型にて物理療法の実技を円滑に実施できる。		
授業計画	《講義内容》 1. 物理療法とは 2. 痛みの生理学と病理学、関節可動域制限 3. 温熱療法に必要な物理学と生理学 4. ホットパック 5. パラフィン浴 6. 水治療法 7. 超短波療法 8. 極超短波療法 9. 超音波療法 10. 寒冷療法 11. 光線療法 12. 電気を用いた治療 13. 圧迫療法、牽引療法 14. 振動刺激療法 15. 定期試験及び試験解説 ※学習状況により授業内容は前後する場合があります		
教科書	庄本　康治「エビデンスから身につける物理療法（第2版）」（羊土社）5,500円+税		
参考書	必要により紹介		
成績評価の方法・基準	定期試験（筆記）による		
授業の留意点･授業外の学習活動など	実技の時は危険の無い様、機器の操作、取扱いに気を付けてください。実技の場合の服装は特に動きやすいものでなくても大丈夫ですが、その都度指示します。		
教員紹介	理学療法士として維持期病院での実務経験を持つ教員が物理療法実施の効果、注意点を踏まえた授業を行います。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	日常生活技術論演習	成塚　修一	2単位　60時間

授業の概要 (授業の目的)	対象者に合った日常生活の機能を向上出来るようになる為に、問題点を考えアプローチが出来るようになる。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	正常な基本的動作が行える。 疾患別のADL上での問題点を検査・列挙ができる。 疾患別で適切な動作介助・指示・指導を行なうことができる。 疾患別の補助具の種類・使用法を理解し実際に使用・助言が行える。 疾患別の住環境の特性を説明・指導・助言が行なうことができる。
授業計画	第1,2回　寝返り・起き上がり・座位保持動作の確認 第3,4回　立ち上がり・移乗動作・歩行動作確認 第5,6回　中枢神経疾患患者に対する講義と実技 第7,8回　中枢神経疾患患者に対する講義と実技 第9,10回　脊髄損傷患者に対する講義と実技 第11,12回　整形外科疾患患者（保存療法）に対する講義と実技 第13,14回　整形外科疾患患者（観血療法）に対する講義と実技 第15,16回　関節リウマチ患者に対する講義と自助具の選択 第17,18回　関節リウマチ患者に対する実技指導 第19,20回　パーキンソン病関連患者に対する動作指導 第21,22回　呼吸器・循環器疾患患者に対する講義と動作指導・コンディショニング調節 第23,24回　高齢者に対する動作指導・基本的特徴をとらえる 第25,26回　総論（講義・実技） 第27,28回　実技試験　（解説） 第29,30回　筆記試験　（解説）
教科書	臼田　滋「Crosslink　理学療法テキスト　日常生活活動学」 MEDICAL VIEW　4,800円＋税
参考書	細田多穂：「日常生活活動学テキスト」南江堂、4,200円 野村歡・橋本美芽：「OT・PTのための住環境整備論」三輪書店3,780円
成績評価の方法・基準	筆記試験(90%)　実技試験(10%)
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義と実技がある科目です。実技の際は、動きやすい服装（ジーパンは不可）で参加してください。また、靴に関してもサンダルやヒールなどでは授業に参加出来ませんので、各自注意をしてください。
教員紹介	理学療法士として、急性期病院・クリニック・訪問看護ステーションにて経験を積み、福祉住環境の資格を活かして在宅でのADL指導を行なった経験がある教員が授業を行ないます。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	評価実習	各施設実習担当者	3単位・135時間

授業の概要 (授業の目的)	理学療法評価の一連の流れを各病院もしくは施設にて指導者のもと体験・実施をする。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	3年時の臨床実習に向け、理学療法評価・問題点抽出・目標設定・治療プログラムの立案を実施・説明ができる。
授業計画	診療録等から間接的情報収集や対象者への直接的情報収集（検査・測定等）を通じて、対象者の状態等に関する評価を実施します。実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で様々な疾患・状態の対象者に対して基本的な検査・測定等を適切に実施することを学びます。さらに、得られた情報から障害像を考え、課題解決に向けた仮説を立てる過程を学びます。 実習前評価：客観的臨床能力試験、多肢選択筆記試験 実習中評価：評価実習報告書 実習後評価：多肢選択筆記試験
教科書	なし
参考書	各自必要な文献を準備する。
成績評価の方法・基準	客観的臨床能力試験(30%)　評価実習報告書(50%) 実習前後多肢選択筆記試験(各10%)
授業の留意点・授業外の学習活動など	社会人・医療従事者になるものとして行動・振る舞い・身だしなみに注意してください。
教員紹介	日本理学療法士教科が定める臨床実習指導者講習会を終了した、各施設の実習担当者が指導します。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	2学年	通年	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	評価実習 ケーススタディ	成塚修一・鈴木恒・ 佐藤譲司	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	臨床の場で指導者のもとで、対象者に対して検査測定が行えるようになるために、基本的な接遇面と知識面・技術面を修得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	対象者の障害像を捉えるために必要な検査測定が実施できる。 対象者に対して謙虚な態度を持ち、検査測定が行える。 教員・指導者に報告・連絡・相談が行える。		
授業計画	第1回　学内演習(地域特性および他職種連携について) 第2回　学内演習(地域特性および他職種連携について) 第3回　青梅看護専門学校との合同演習(地域特性と看護)① 第4回　青梅看護専門学校との合同演習(地域特性と看護)② 第5回　青梅看護専門学校との合同演習(地域特性と看護)③ 第6回　青梅看護専門学校との合同演習(地域特性と看護)④ 第7回　学内演習(振り返りおよびまとめ) 第8回　評価実習前実技演習① 第9回　評価実習前実技演習② 第10回　実習報告会① 第11回　実習報告会② 第12回　実習報告会③ 第13回　実習報告会④ 第14回　実習報告会⑤ 第15回　実習報告会⑥		
教科書	随時資料配布		
参考書	必要に応じて配布		
成績評価の方法・基準	演習後のレポート評価(50%)　実習報告会の評価(50%)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	評価実習に必要な知識・技術・接遇面を総合的に学ぶ授業となります。		
教員紹介	理学療法学科の専任教員が担当します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	3学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択必修分野	基礎分野演習	専任教員・他	3単位・90時間

授業の概要 (授業の目的)	専門基礎分野(授業概要に記載されている学問)における知識を復習し、理解することができる。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	専門基礎分野の問題を理解し、解答できる。
授業計画	《講義内容》 ○解剖学 ○生理学 ○運動学 ○人間発達学 ○病理学 ○臨床心理学 ○内科学 ○整形外科学 ○神経内科学 ○精神医学 ○小児科学 ○リハビリテーション概論　　等 ※授業回数、日程などの詳細は別途案内する。
教科書	随時資料配布
参考書	随時紹介します
成績評価の方法・基準	試験(マークシート形式)
授業の留意点・授業外の学習活動など	無断遅刻や無断欠席は認めませんので5分前行動を徹底し、勝手解釈は絶対に行わないでください。また授業中は周囲の学生に迷惑がかかる行動は慎んでください。
教員紹介	理学療法学科の専任教員に加え、作業療法学科教員、臨床心理士、臨床で活躍している理学療法士が専門基礎科目の復習および理解を深めるための講義をしていきます。わからないことは必ず質問する癖をつけてください。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	3学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択必修分野	専門分野演習	専任教員・他	3単位・90時間

授業の概要 (授業の目的)	専門分野(授業概要に記載されている学問)における知識を復習し、理解することができる。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	専門分野の問題を理解し、解答できる。
授業計画	《講義内容》 ○理学療法概論 ○理学療法評価法 ○運動療法 ○中枢神経系疾患の概要と理学療法 ○骨関節系疾患の概要と理学療法 ○神経筋系疾患の概要と理学療法 ○内部障害系疾患の概要と理学療法 ○運動発達系疾患の概要と理学療法 ○物理療法学 ○義肢装具学 ○地域理学療法学 ○日常生活技術論　等 ※授業回数、日程などの詳細は別途案内する。
教科書	随時資料配布
参考書	随時紹介します
成績評価の方法・基準	試験(マークシート形式)
授業の留意点・授業外の学習活動など	無断遅刻や無断欠席は認めませんので5分前行動を徹底し、勝手解釈は絶対に行わないでください。また授業中は周囲の学生に迷惑がかかる行動は慎んでください。
教員紹介	理学療法学科の専任教員に加え、臨床で活躍している理学療法士が専門科目の復習および理解を深めるための講義をしていきます。わからないことは必ず質問する癖をつけてください。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	3学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択必修分野	総合分野演習	専任教員・他	2単位・60時間
授業の概要 (授業の目的)	専門基礎分野ならびに専門分野の知識をもとに専門分野における図や表の知識ならびに応用文章等を読み取る。これまで修得した学問の知識と整合することができる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	専門分野における図や表ならびに応用文章等から問題を理解し解答できる。		
授業計画	《講義内容》 ○理学療法評価法 ○臨床運動学 ○中枢神経系疾患の概要と理学療法 ○骨関節系疾患の概要と理学療法 ○神経筋系疾患の概要と理学療法 ○内部障害系疾患の概要と理学療法 ○運動発達系疾患の概要と理学療法 ○物理療法学 ○義肢装具学 ○日常生活技術論　等 ※授業回数、日程などの詳細は別途案内する。		
教科書	随時資料配布		
参考書	随時紹介します		
成績評価の方法・基準	試験(マークシート形式)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	無断遅刻や無断欠席は認めませんので5分前行動を徹底し、勝手解釈は絶対に行わないでください。また授業中は周囲の学生に迷惑がかかる行動は慎んでください。		
教員紹介	理学療法学科の専任教員に加え、臨床で活躍している理学療法士が、実習及び講義で得た知識の統合をしていきます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	3学年	前期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	総合臨床実習	各施設実習担当者	18単位・810時間
授業の概要 (授業の目的)	総合臨床実習は、評価実習の内容に加え、対象者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定等を学びます。実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習が望ましく、様々な疾患・状態の対象者を数多く経験し、経過の観察を通じて理学療法の効果を学びます。また、診療録等への記載方法やカンファレンスへの参加など、様々な理学療法業務についても理解を深めます。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	1. 理学療法の対象者との関係性構築 ・対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。 2. チーム内での多職種との関係性及び理学療法士としての役割 ・職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動をとることができる。 3. 理学療法プロセスの理解 ・理学療法の流れを理解するとともに、臨床内容の意義を理解して説明をすることができる。 4. 対象者に対する理学療法実践 ・日本理学療法士協会が「臨床実習の手引き」で提示する水準Ⅰに該当する臨床行為について、臨床実習指導者の監督・指導の下で実施すべき項目とする。 1)リスク管理　2)理学療法評価　3)理学療法治療技術 〈授業計画〉 各実習地にて8週間の実習を2期にわたり実施する。 総合臨床実習前1週、実習後1週にて実技試験および筆記試験を実施する。		
教科書	なし		
参考書	各自必要な文献等を準備する。		
成績評価の方法・基準	客観的臨床能力試験(30%)　臨床実習報告書(60%) 実習前後多肢選択筆記試験(10%)		
授業の留意点･授業外の学習活動など	社会人・医療従事者になるものとしての行動・振る舞い・身だしなみに注意する。		
教員紹介	各実習施設の厚労省が指定した臨床実習指導者講習会等を受講し修了した理学療法士が指導者となり理学療法士としての知識や技術を指導していきます。また、学科教員が実習施設を巡回し、学生のサポートをしていきます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
理学療法学科	3学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択必修分野	総合臨床実習ケーススタディ	小嶋　陽香 岩井　琢也	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	総合臨床実習の場で指導者の下で対象者に理学療法評価および治療が行えるようになるため、基本的な知識・技術面を修得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	総合臨床実習で問われる理学療法評価および治療に関する知識・技術を説明し実施できる。 報告会で理学療法実習での経験・症例について説明ができる。		
授業計画	第1回　　臨床実習前オリエンテーション 第2～4回　PBL①(脳血管疾患) 第5～7回　PBL②(運動器疾患) 第8～15回　症例検討会		
教科書	随時資料を配布		
参考書	必要に応じて紹介		
成績評価の方法・基準	PBL評価(40%)、症例検討会評価(60%)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	医療に関わる人として、謙虚や感謝の気持ちをもって取り組むこと。		
教員紹介	実務経験のある教員が、実習に向けた専門知識の獲得と実習後の知識の整理を指導していきます。		